

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第6309552号
(P6309552)

(45) 発行日 平成30年4月11日 (2018. 4. 11)

(24) 登録日 平成30年3月23日 (2018. 3. 23)

(51) Int. Cl.

F 1

B 6 0 N 2/90 (2018. 01)

B 6 0 N 2/44

B 6 0 R 21/207 (2006. 01)

B 6 0 R 21/207

B 6 0 N 2/427 (2006. 01)

B 6 0 N 2/427

請求項の数 8 (全 19 頁)

(21) 出願番号 特願2016-1814 (P2016-1814)
 (22) 出願日 平成28年1月7日 (2016. 1. 7)
 (65) 公開番号 特開2017-121869 (P2017-121869A)
 (43) 公開日 平成29年7月13日 (2017. 7. 13)
 審査請求日 平成29年1月10日 (2017. 1. 10)

(73) 特許権者 000241500
 トヨタ紡織株式会社
 愛知県刈谷市豊田町 1 丁目 1 番地
 (73) 特許権者 000003207
 トヨタ自動車株式会社
 愛知県豊田市トヨタ町 1 番地
 (74) 代理人 110000394
 特許業務法人岡田国際特許事務所
 (72) 発明者 小笠原 拓哉
 愛知県刈谷市豊田町 1 丁目 1 番地 トヨタ
 紡織株式会社内
 (72) 発明者 泉川 英之
 愛知県刈谷市豊田町 1 丁目 1 番地 トヨタ
 紡織株式会社内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 乗物用シート

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

シート骨格をなすシートフレームと、乗員を弾性的に支持可能なシートパッドと、前記シートパッドの着座側を被覆するシートカバーと、前記シートフレームに取付けられて前記シートパッドを裏面側から支持する平板状の支持部材と、前記支持部材に取付けられたエアバッグ装置とを備え、前記エアバッグ装置のエアバッグが、前記シートパッドの飛出部を通して前記シートカバーの破断部からシート外に展開可能である乗物用シートにおいて、

前記支持部材が、前記シートパッドに対面状に配置された樹脂製の本体部と、前記本体部に比して変形しにくい素材で形成されたブラケット部とを一体的に備え、

前記エアバッグ装置が、前記ブラケット部に取付けられて前記飛出部の裏側に配置されており、

前記乗物用シートが、前記シートカバーの裏側で前記エアバッグ装置の少なくとも一部を囲うように設けられた帯状の力布を備え、

前記力布のシート着座側の端部が前記破断部に取付けられているとともに、前記力布のシート裏側の端部が前記ブラケット部に取付けられており、

前記ブラケット部が、前記力布の通過を許容する通過部を有し、前記通過部の内面の少なくとも一部が、前記本体部の一部で構成された被覆部にて覆われており、

前記力布が前記通過部に挿通された状態で配索されている乗物用シート。

【請求項 2】

10

20

前記ブラケット部が、前記エアバッグ装置を固定可能な孔状の固定部を有し、前記エアバッグ装置を固定するための固定具が、前記本体部から露出した前記固定部に挿通された状態で固定されている請求項 1 に記載の乗物用シート。

【請求項 3】

ボルト状の前記固定具が、前記固定部に挿通され且つ前記固定部の裏側で留め具に螺合されている請求項 2 に記載の乗物用シート。

【請求項 4】

前記力布のシート裏側の端部に平板状の取付け具が設けられているとともに、前記取付け具が、前記取付け具を厚み方向に貫通する挿通孔を有し、前記挿通孔に、前記ブラケット部から突出する棒状の固定ピンを挿通可能であり、

10

前記取付け具が、前記ブラケット部から突出する棒状の固定ピンに挿通された状態で固定されているとともに、前記ブラケット部に、前記固定ピンを中心とした前記取付け具の回転を規制する規制部が設けられている請求項 1 ～ 3 のいずれか一項に記載の乗物用シート。

【請求項 5】

前記シートカバーのシート着座側とは反対のシート裏側の端部が前記ブラケット部に取付けられている請求項 1 ～ 4 のいずれか一項に記載の乗物用シート。

【請求項 6】

前記ブラケット部の少なくとも一部が前記本体部に埋設状に一体化されているとともに、前記埋設状とされたブラケット部に、前記本体部の一部が入り込んで配置されている孔状又は切欠き状のアンカー部が設けられている請求項 1 ～ 5 のいずれか一項に記載の乗物用シート。

20

【請求項 7】

前記エアバッグ装置が前記ブラケット部に取付けられた状態を基準として、前記ブラケット部に、前記エアバッグ装置よりもシート幅方向外方で前記着座側に向けて突出する突出部が設けられている請求項 1 ～ 6 のいずれか一項に記載の乗物用シート。

【請求項 8】

前記ブラケット部が、前記本体部よりも変形しにくい金属製の部材で構成されている請求項 1 ～ 7 のいずれか一項に記載の乗物用シート。

【発明の詳細な説明】

30

【技術分野】

【0001】

本発明は、シートフレームに取付けられてシートパッドを裏面側から支持する平板状の支持部材と、支持部材に取付けられたエアバッグとを備えた乗物用シートに関する。

【背景技術】

【0002】

この種の乗物用シートとして、シートバックが、シート骨格をなすシートフレームと、乗員を弾性的に支持するシートパッドと、シートバックボードと、サイドエアバッグ装置を備えた乗物用シートが公知である（特許文献 1 を参照）。このシートバックでは、本発明の支持部材に相当するシートバックボードがシートフレームの着座側に取付けられている。このシートバックボードは、シートパッドを裏面側から支持する樹脂製の部材であり、平板状のボード本体と、複数のバックバネ部を有している。複数のバックバネ部は、それぞれシート幅方向に延びる帯状の部位であり、ボード本体の着座側に配設されてシートパッドを裏面から弾性的に支持する。そしてボード本体には、シートフレームに係止め可能な下部連結固定部と、サイドエアバッグ装置を取付けるための取付部が設けられている。下部連結固定部は、平断面視で略逆 U 字状に形成された部位であり、シート幅方向におけるボード本体の周縁に設けられている。また取付部は、下部連結固定部の末端からシート幅方向外側に突出する平板部位であり、この取付部には、サイドエアバッグ装置をボルト止め可能なボルト挿設孔が設けられている。またサイドエアバッグ装置は、スタッドボルトが裏面側から突出した立方体状の部材であり、ガスの流入により膨張可能なエアバッ

40

50

グと、エアバッグにガスを供給するインフレータが内蔵されている。

【 0 0 0 3 】

そしてシートバックボードのボード本体をシートフレームに取付けるとともに、サイドエアバッグ装置を、シートバックボードの取付部に着座側から締結して固定する。このときサイドエアバッグ装置のスタッドボルトを、取付部のボルト挿設孔に挿通しつつ取付部の裏側でナットに螺合する。そしてシートパッドを、バックバネ部に支持させながらシートフレームの着座側に配設してシートカバーで被覆する。この状態においては、サイドエアバッグ装置が、ボード本体の取付部に取付けられてシートパッドの裏面側に配置されている。そして乗物衝突時においては、インフレータが作動してエアバッグを膨張させ、この膨張したエアバッグが、シートパッドから飛出しながらシートカバーを破断させてシート外に展開する。このエアバッグの展開時においては、着座側に向けて膨張するエアバッグを、サイドエアバッグ装置とともに裏面側の取付部によって支持する。このため公知技術では、樹脂製の取付部を、エアバッグ展開時の応力に対応すべくボード本体に比して肉厚としたり、取付部の裏側に平板状のリブを突設したりしている。

10

【 先行技術文献 】

【 特許文献 】

【 0 0 0 4 】

【 特許文献 1 】 国際公開第 2 0 1 2 / 1 5 7 0 9 9 号

【 発明の概要 】

【 発明が解決しようとする課題 】

20

【 0 0 0 5 】

ところで公知技術では、エアバッグ展開時の応力に対応するため、樹脂製の取付部を肉厚としたりリブを設けたりして構造的に補強する必要がある。このため公知技術の構成では、取付部が過度に大きくなることがあり、シートの内部スペースの関係から、すんなり採用できる構成ではなかった。また公知技術のようにサイドエアバッグ装置を樹脂製の取付部に締結する構成では、取付部の座屈変形等によってナットが緩むことがあり、サイドエアバッグ装置の取付け安定性にやや欠ける構成となりがちであった。本発明は上述の点に鑑みて創案されたものであり、本発明が解決しようとする課題は、比較的コンパクトな構成によって、エアバッグ装置などの他部材を支持部材に安定的に取付けることにある。

【 課題を解決するための手段 】

30

【 0 0 0 6 】

上記課題を解決するための手段として、第 1 発明の乗物用シートは、シート骨格をなすシートフレームと、乗員を弾性的に支持可能なシートパッドと、シートパッドの着座側を被覆するシートカバーと、シートフレームに取付けられてシートパッドを裏面側から支持する平板状の支持部材と、支持部材に取付けられたエアバッグ装置を備える。本発明では、エアバッグ装置のエアバッグが、シートパッドの飛出部を通してシートカバーの破断部からシート外に展開可能である。この種の構成では、比較的コンパクトな構成によって、支持部材とは異なる他部材であるエアバッグ装置を支持部材に安定的に取付けられることが望ましい。

【 0 0 0 7 】

40

そこで本発明では、支持部材が、シートパッドに対面状に配置された樹脂製の本体部と、本体部に比して変形しにくい素材で形成されたブラケット部とを一体的に備える。そしてエアバッグ装置が、ブラケット部に取付けられて飛出部の裏側に配置されている。本発明では、ブラケット部が、本体部に比して変形しにくい素材（曲がりにくい又は破損しにくい素材）で形成されている。このため他部材であるエアバッグ装置を取付けるためのブラケット部を、構造的に補強する必要がなく低質量でコンパクトな構成とすることができる。そしてエアバッグ装置のエアバッグの展開時には、相対的に変形しにくいブラケット部にてエアバッグ装置を安定的に支持することができる。

また第 1 発明の乗物用シートは、シートカバーの裏側でエアバッグ装置の少なくとも一部を囲うように設けられた帯状の力布を備えている。そして力布のシート着座側の端部が

50

破断部に取付けられているとともに、力布のシート裏側の端部がブラケット部に取付けられている。本発明では、他部材である力布の端部を、相対的に変形しにくいブラケット部に安定的に取付けることができる。

また第1発明の乗物用シートは、ブラケット部が、力布の通過を許容する通過部を有し、通過部の内面の少なくとも一部が、本体部の一部で構成された被覆部にて覆われており、力布が通過部に挿通された状態で配索されている。本発明では、シート着座側から裏側に力布を配索する場合、この力布を、本体部から露出するブラケット部の通過部を通過させながら適切に配索することができる。そして通過部の内面が被覆部にて覆われていることから、力布を、極力破損させることなく通過部に挿通させておくことができる。

【0008】

10

第2発明の乗物用シートは、第1発明の乗物用シートにおいて、ブラケット部が、エアバッグ装置を固定可能な孔状の固定部を有し、エアバッグ装置を固定するための固定具が、本体部から露出した固定部に挿通された状態で固定されている。本発明では、エアバッグ装置を固定するための固定具を、本体部から露出し且つ相対的に変形しにくいブラケット部の固定部に挿通しつつ安定的に固定することができる。

【0009】

第3発明の乗物用シートは、第2発明の乗物用シートにおいて、ボルト状の固定具が、固定部に挿通され且つ固定部の裏側で留め具に螺合されている。本発明では、エアバッグ装置を締結するためのボルト状の固定具を、本体部から露出するブラケット部の固定部に挿通しつつ留め具に螺合する。このとき座面となる固定部の周縁が座屈変形しにくくされて軸力を出して締結できるため、固定具に対して留め具をしっかり螺合させておくことができる。

20

【0012】

第4発明の乗物用シートは、第1発明～第3発明のいずれかの乗物用シートにおいて、力布のシート裏側の端部に平板状の取付け具が設けられているとともに、取付け具が、取付け具を厚み方向に貫通する挿通孔を有し、挿通孔に、ブラケット部から突出する棒状の固定ピンを挿通可能である。そして取付け具が、ブラケット部から突出する棒状の固定ピンに挿通された状態で固定されているとともに、ブラケット部に、固定ピンを中心とした取付け具の回転を規制する規制部が設けられている。本発明では、規制部によって、力布の取付け具を、ブラケット部の適所に正しく配置しつつ固定ピンに固定することができる。

30

【0013】

第5発明の乗物用シートは、第1発明～第4発明のいずれかの乗物用シートにおいて、シートカバーのシート着座側とは反対のシート裏側の端部がブラケット部に取付けられている。本発明では、他部材であるシートカバーの端部を、相対的に変形しにくいブラケット部に安定的に取付けることができる。

【0014】

第6発明の乗物用シートは、第1発明～第5発明のいずれかの乗物用シートにおいて、ブラケット部の少なくとも一部が本体部に埋設状に一体化されているとともに、埋設状とされたブラケット部に、本体部の一部が入り込んで配置されている孔状又は切欠き状のアンカー部が設けられている。本発明では、ブラケット部の少なくとも一部が本体部に埋設状に一体化されており、さらにブラケット部が、その埋設部分に設けられたアンカー部によって本体部に安定的に保持されている。

40

【0015】

第7発明の乗物用シートは、第1発明～第6発明のいずれかの乗物用シートにおいて、エアバッグ装置がブラケット部に取付けられた状態を基準として、ブラケット部に、エアバッグ装置よりもシート幅方向外方で着座側に向けて突出する突出部が設けられている。本発明では、エアバッグ装置の外方に配置する突出部により、エアバッグを正しい方向に向けてスムーズに展開させることができる。

【0016】

50

第8発明の乗物用シートは、第1発明～第7発明のいずれかの乗物用シートにおいて、ブラケット部が、本体部よりも変形しにくい金属製の部材で構成されている。本発明では、樹脂製の本体部に比して変形しにくい金属製のブラケット部にエアバッグ装置を安定的に取付けることができる。

【発明の効果】

【0017】

本発明に係る第1発明によれば、比較的コンパクトな構成によって、他部材であるエアバッグ装置を支持部材に安定的に取付けることができる。また第1発明によれば、比較的コンパクトな構成によって、他部材である力布を支持部材に安定的に取付けることができる。また第1発明によれば、力布を支持部材に取付ける安定的且つ性能良く取付けることができる。また第2発明によれば、エアバッグ装置を支持部材により安定的に取付けることができる。また第3発明によれば、エアバッグ装置を支持部材により安定的に締結して取付けることができる。また第4発明によれば、力布を支持部材にさらに安定的に取付けることができる。また第5発明によれば、比較的コンパクトな構成によって、他部材であるシートカバーを支持部材に安定的に取付けることができる。また第6発明によれば、他部材を支持部材に更に安定的に取付けることができる。また第7発明によれば、エアバッグ装置を支持部材に安定的且つ性能よく取付けることができる。そして第8発明によれば、他部材を支持部材により更に安定的に取付けることができる。

10

【図面の簡単な説明】

20

【0018】

【図1】乗物用シートの斜視図である。

【図2】図1のII-II線断面に相当するシートバックの断面図である。

【図3】シートバック一部の分解斜視図である。

【図4】支持部材の正面図である。

【図5】図4のVで示す部分における支持部材の拡大透視正面図である。

【図6】支持部材の裏面図である。

【図7】ブラケット部の斜視図である。

【図8】ブラケット部の側面図である。

【図9】支持部材一部の裏面側の斜視図である。

30

【図10】図5のX-X線断面に相当する支持部材の断面図である。

【図11】力布の取付け作業を示す支持部材一部の裏面側の斜視図である。

【図12】シートカバーの取付け作業を示す支持部材一部の裏面側の斜視図である。

【図13】エアバッグ装置を取付けた状態を示す図5のXIII-XIII線断面に相当する支持部材の断面図である。

【図14】力布を取付けた状態を示す図5のXIV-XIV線断面に相当する支持部材の断面図である。

【図15】シートカバーを取付けた状態を示す図5のXV-XV線断面に相当する支持部材の断面図である。

【発明を実施するための形態】

40

【0019】

以下、本発明を実施するための形態を、図1～図15を参照して説明する。各図には、便宜上、乗物用シートの前方向と左右方向と上下方向を示す矢線を図示することがある。図1の乗物用シート2は、シートクッション4と、シートバック6と、ヘッドレスト8を有する。これらシート構成部材は、各々、シート骨格をなすシートフレーム(4F, 6F, 8F)と、シート外形をなすシートパッド(4P, 6P, 8P)と、シートパッドを被覆するシートカバー(4S, 6S, 8S)を有する。そしてシートクッション4の後部にシートバック6(詳細後述)の下部が起倒可能に連結するとともに、起立状態のシートバック6の上部にヘッドレスト8が配設される。

【0020】

50

〔シートバック〕

シートバック 6 は、図 2 を参照して、上述の基本構成（6 F，6 P，6 S）と、エアバッグ装置 20 と、一对の力布 31，32 と、本発明の支持部材に相当するバックパン 40 を有する（各部材の詳細は後述）。ここでシートパッド 6 P は、後述するバックパン 40 を介してシートフレーム 6 F の着座側に取付けられており、シートパッド 6 P の着座側がシートカバー 6 S で被覆されている。なおシートバック 6 の裏面側には平板状のバックボード 9 が取付けられており、このバックボード 9 は、シート幅方向における周縁が着座側に向けて湾曲している（図 2 では、便宜上、バッグボードの周縁部分のみ図示する）。そしてシートバック 6 は、図 1 を参照して、乗員の肩甲骨や肩部等を支える上部領域 6 A が、乗員の腰部等を支える下部領域 6 B に対して、前側に折れ曲がる形に傾動（中折れ）することができる。

10

【0021】

またエアバッグ装置 20（詳細後述）は、図 2 及び図 10 を参照して、後述するバックパン 40 のブラケット部 50 に取付けられてシート内に配設されている。そして乗物衝突時においては、エアバッグ装置 20 に内蔵されたエアバッグ 24 がシート外に展開して乗員を保護する。このとき膨張するエアバッグ 24 が、図 2 を参照して、シートパッド 6 P の飛出部 6 P X を通りながら、一对の力布 31，32 を介してシートカバー 6 S の破断部 6 S X を開口させつつシート外に展開することとなる。このエアバッグ展開時においては、シート外に向けて膨張するエアバッグ 24 を、エアバッグ装置 20 とともに裏面側のバックパン 40 のブラケット部 50 によって支持する。この種の構成では、シートの内部スペースなどを考慮して、比較的コンパクトな構成によって、バックパン 40 にエアバッグ装置 20 を安定的に取付けられることが望ましい。そこで後述するコンパクトな構成によって、バックパン 40 にエアバッグ装置 20 を安定的に取付けることとした。以下、各構成について詳述する。

20

【0022】

〔基本構成〕

シートフレーム 6 F は、図 3 を参照して、正面視で略矩形形状の枠部材であり、剛性に優れる金属や硬質樹脂等の素材にて形成できる。このシートフレーム 6 F は、上部骨格をなすアップフレーム部 12 と、側部骨格をなす左右のサイドフレーム部 14 と、下部骨格をなすロアフレーム部 16 を一つなぎで有する。そしてアップフレーム部 12 には、一对のヘッドレストブラケット 13 と、一对のブラダ 15 が設けられている。一对のヘッドレストブラケット 13 は、ヘッドレスト 8 の下部から突出するヘッドレストステー（図示省略）を挿設可能な筒状の部材であり、シート幅方向におけるアップフレーム部 12 の中央に適宜の間隔で固定されている。また一对のブラダ 15 は、後述するバックパン 40 のアップパパン 42 を傾倒させる正面視で略矩形の平板部材であり、アップフレーム部 12 の左右にそれぞれ設けられている。これら各ブラダ 15 は、その背後の進退機構（図示省略）とともに平板状の取付けブラケット 15 a を介してアップフレーム部 12 等に固定されている。また各サイドフレーム部 14 とロアフレーム部 16 には、正面視で略矩形の一对の締結板 18 F が取付けられている。これら締結板 18 F には、図示しないボルト部材を挿通可能な貫通孔（符号省略）が設けられており、後述するバックパン 40 のロアパン 44 を締結して固定可能である。ここで一方の締結板 18 F は、右側のサイドフレーム部 14 の下部外側に取付けられている。また他方の締結板 18 F は、一方の締結板 18 F よりも下方に配置されており、左側のサイドフレーム部 14 下端からロアフレーム部 16 左端にかけての角部分に取付けられている。

30

40

【0023】

またシートパッド 6 P は、図 2 及び図 3 を参照して、シート外形をなして乗員を弾性的に支持可能な部材であり、エアバッグ 24 の飛出し箇所となる飛出部 6 P X を有する。ここでシートパッド 6 P の材質は特に限定しないが、例えばポリウレタンフォーム（密度：10 kg/m³～60 kg/m³）等の発泡樹脂で形成できる。このシートパッド 6 P は、正面視で略矩形形状をなしており、天板メイン部 6 a と、天板サイド部 6 b と、区画溝部 6

50

cと、飛出部6PXと、通路部W1, W2を有する。天板メイン部6aは、シートパッド6P中央の平坦な部位であり、乗員の着座(背もたれ)が可能である。また天板サイド部6bは、天板メイン部6aの側方で着座側に突出する部位であり、例えばコーナリング走行時に乗員の側部56を支持できる。また区画溝部6cは、シートバック6の上部領域6Aと下部領域6Bの間に配置する溝部であり、天板メイン部6aと天板サイド部6bを横断して配置されている。この区画溝部6cから上の天板メイン部6aと天板サイド部6bが上部領域6Aを構成しており、後述するバックパン40のアップバン42の前傾に追従して傾倒することができる。そして図2を参照して、右側の天板サイド部6bの頂部付近には、他の部位に比して薄肉化された飛出部6PXが形成されており、シートカバー6Sの破断部6SX(後述)に対面状に配置されている。また右側の天板メイン部6aと天板

10

【0024】

またシートカバー6Sは、図2を参照して、シートパッド6Pを被覆可能な袋状の部材であり、エアバッグ24のシート外への展開基点となる破断部6SXを有する。このシートカバー6Sは、複数の表皮ピース(SP1~SP3等)を縫合して形成されており、符号SEW1とSEW2は隣り合う表皮ピースの縫合部を示す。例えば第一表皮ピースSP1は、天板メイン部6aの上部を被覆する表皮ピースである。また第二表皮ピースSP2は、右側の天板サイド部6bの上部着座側を被覆する表皮ピースである。そして第三表皮

20

【0025】

[エアバッグ装置]

ここでエアバッグ装置20は、図2及び図10を参照して、シート上下方向に長尺な略立方体状の部材であり、シートバック6右側の内部に配設されている。このエアバッグ装置20は、図10を参照して、一对の固定具21, 22と、未膨張状態のエアバッグ24と、このエアバッグ24にガスを供給するガス供給装置26とを備える。一对の固定具21, 22は、エアバッグ装置20の裏面に固定されたスタッドボルト状の部材であり、その周面にネジ溝が設けられて後述の留め具80が螺合可能である。またエアバッグ24は、ガスの流入により膨張する袋体であり、ガス供給装置26には、ガス発生剤又は高圧ガスが封入されている。そしてエアバッグ装置20を、後述するようにバックパン40のブラケット部50に締結固定してシート内に配設する。そして乗物衝突時においては、衝突の衝撃を受けてガス供給装置26が作動し、エアバッグ装置20内のエアバッグ24が、ガスの供給により膨張しながら、飛出部6PXと破断部6SXを通してシート外に展開することとなる。

30

40

【0026】

[力布・取付け具]

一对の力布(第一力布31, 第二力布32)は、図2を参照して、それぞれシートカバー6Sの裏側でエアバッグ装置20の周りに配置される帯状の部材である。ここで各力布31, 32の素材は特に限定しないが、エアバッグ24の膨張時の圧力では破損しない程

50

度の剛性を備えることが好ましく、典型的にはシートカバー 6 S よりも伸び難い布帛製である。そして各力布 3 1 , 3 2 のシート着座側の一端側は、後述するようにシートカバー 6 S の破断部 6 S X に取付けられる。また各力布 3 1 , 3 2 のシート裏側の他端側には取付け具 3 4 a , 3 4 b が取付けられており、これら取付け具 3 4 a , 3 4 b が、後述するブラケット部 5 0 に固定されることとなる。各取付け具 3 4 a , 3 4 b は、図 1 1 を参照して、断面視で略 L 字状をなす略矩形の平板部材であり、その一片が、ブラケット部 5 0 の裏面に対面配置可能であるとともに、他片が、一片から湾曲又は屈曲して着座側に突出している。また各取付け具 3 4 a , 3 4 b には、後述するブラケット部 5 0 に締結するための挿通孔 3 4 H と、各力布 3 1 , 3 2 を取付けるための取付け孔 3 5 H とが設けられている。ここで取付け孔 3 5 H は、各取付け具 3 4 a , 3 4 b の他片側に設けられた貫通孔であり、この取付け孔 3 5 H に、各力布 3 1 , 3 2 の端部を輪状とした部分が挿通されている。また挿通孔 3 4 H は、ブラケット部 5 0 の固定ピン 6 8 を挿通可能な貫通孔であり、各取付け具 3 4 a , 3 4 b の一片の略中央に設けられている。

10

【 0 0 2 7 】

[バックパン (支持部材)]

バックパン 4 0 は、本発明の支持部材に相当する平板部材であり、図 3 を参照して、シートフレーム 6 F の着座側に取り付けられてシートパッド 6 P を裏側から支持することができる。このバックパン 4 0 は、図 4 ~ 図 6 を参照して、正面視で略矩形をなす樹脂製の本体部 4 1 (アップパン 4 2 , ロアパン 4 4) と、後述する金属製のブラケット部 5 0 を有する。アップパン 4 2 は、シートバック起立時を基準として本体部 4 1 の上部側をなす平板部位であり、一対の支承凹部 4 2 a が設けられている。一対の支承凹部 4 2 a は、アップパン 4 2 の上部左右に設けられた略矩形の凹み部位であり、シートフレーム 6 F への取付け状態時においては、シート後方に突出配置され且つ対応するブラダ 1 5 に当接可能な位置に配置される。またロアパン 4 4 は、シートバック起立時を基準として本体部 4 1 の下部側をなす平板部位であり、一対のボルト受け部 4 4 a が設けられている。これらボルト受け部 4 4 a は、シート幅方向におけるロアパン 4 4 の左右位置にそれぞれ設けられており、その裏面側に、図示しないボルト部材を螺合可能な固定凹部 4 4 H (非貫通孔) が形成されている。そして右方のボルト受け部 4 4 a は、シートフレーム 6 F への取付け状態時においてサイドフレーム部 1 4 下部に設けた一方の締結板 1 8 F に対面状に配置され、左方のボルト受け部 4 4 a は、サイドフレーム部 1 4 下端に設けた他方の締結板 1 8 F に対面状に配置されることとなる。

20

30

【 0 0 2 8 】

そして本体部 4 1 をなすアップパン 4 2 とロアパン 4 4 は、起立状態のシートバック 6 において上下方向に並んで配置されている。これらアップパン 4 2 とロアパン 4 4 は、後述するシートフレーム 6 F への取付け状態時を基準として、シート幅方向における周縁部分が次第に着座側に湾曲している。またアップパン 4 2 とロアパン 4 4 は、図 4 及び図 6 を参照して、これらの間に配設された一対のヒンジピン 4 6 で連結されている。各ヒンジピン 4 6 は、シート幅方向に延びる棒状部材であり、本体部 4 1 を裏面から見てその左右に設けられている。そしてアップパン 4 2 の下縁が、ロアパン 4 4 の上縁に対してヒンジピン 4 6 の軸周りに回転可能に連結されている。こうすることでアップパン 4 2 が、後述するようにシートフレーム 6 F に固定されたロアパン 4 4 に対してシート前方に傾倒可能とされる。

40

【 0 0 2 9 】

[ブラケット部]

ブラケット部 5 0 は、図 5、図 7 及び図 8 を参照して、ハット断面形状を有する平板部材で構成されており、本体部 4 1 に比して変形しにくい素材で形成されて相対的に曲がりにくく又は破損しにくくされている。ここでブラケット部 5 0 の材質は特に限定しないが、鋼系 (ステンレス鋼等)、アルミニウム合金系、マグネシウム合金系、チタン合金系等の金属を例示できる。このブラケット部 5 0 は、本体部 4 1 よりも薄肉化されてその質量が低減されており、正面視で長形状の底面部 5 2 と、底面部 5 2 の右側に設けた立壁状

50

の突出部 5 4 と、底面部 5 2 の左側に設けたクランク状の側部 5 6 とを有する。突出部 5 4 は、ブラケット部 5 0 の右側を屈曲させることで形成されており、図 2 のようにエアバッグ装置 2 0 を取付けた状態においては、エアバッグ装置 2 0 よりもシート幅方向外側（図では右側）に配置して着座側に突出する。この突出部 5 4 の前端は、本体部 4 1 をなす樹脂にて覆われており、この突出部 5 4 を覆う樹脂部分がシート前方に向けて延長している（本発明の突出部は、突出部 5 4 自体のほか、この突出部 5 4 から前方に突出する樹脂部分を含むことができる）。また側部 5 6 は、ブラケット部 5 0 の左側をクランク状に屈曲させながら突出させることで形成されており、その末端側の側部端部 5 6 a が底面部 5 2 に比して着座側に一段高くされている。これら突出部 5 4 と側部 5 6 には、図 5 及び図 7 を参照して、複数の円形状の貫通孔（後述のアンカー部 6 0 となるべき部分）が適宜の間隔で設けられている。そしてブラケット部 5 0 には、後述するように他部材としてのエアバッグ装置 2 0 とシートカバー 6 5 と各力布 3 1, 3 2 を取付けることができる。このためブラケット部 5 0 には、一对の固定部 6 2 と、通過部 6 4 と、規制部 6 6 と、固定ピン 6 8 と、複数の掛止部 7 1 ~ 7 3 が設けられている（各部の詳細は後述）。

【 0 0 3 0 】

[アンカー部]

ここで図 4 ~ 図 6 を参照して、バックパン 4 0 においては、ブラケット部 5 0 と本体部 4 1 が一体的に設けられている。ブラケット部 5 0 と本体部 4 1 の一体化の手法は特に限定しないが、例えば一体成形によってブラケット部 5 0 を本体部 4 1 に埋設状に一体化することができる。すなわち本体部 4 1 のアップパン 4 2 を成形する成形型（図示省略）のキャビティ内の適所にブラケット部 5 0 を予め配置しておき、この状態でアップパン 4 2 を成形することにより、ブラケット部 5 0 を、アップパン 4 2 の上部右側に埋設状に一体化することができる。このとき図 9、図 1 0 及び図 1 3 を参照して、ブラケット部 5 0 の底面部 5 2 は本体部 4 1 から露出しているが、ブラケット部 5 0 の少なくとも一部である突出部 5 4 と側部 5 6（通過部 6 4 を除く部分）は、本体部 4 1 に対して埋設されて一体化されている。このように金属製の突出部 5 4 と側部 5 6 を本体部 4 1 に埋設しておくことで、これら各部の端部（エッジ）によってシート内の部材が破損することを好適に回避できる。さらに突出部 5 4 と側部 5 6 には、ブラケット部 5 0 を厚み方向に貫通する孔状のアンカー部 6 0 が複数設けられており、各アンカー部 6 0 には、本体部 4 1 の一部が入り込んで配置されている。このようにブラケット部 5 0 の埋設部分にアンカー部 6 0 を設けることで、ブラケット部 5 0 を本体部 4 1 に安定的に保持させておくことができる。

【 0 0 3 1 】

[固定部]

一对の固定部 6 2 は、図 5 を参照して、それぞれ底面部 5 2 の上部を厚み方向に貫通する略円形の孔部であり、エアバッグ装置 2 0 を取付けることができる。これら固定部 6 2 は、上下方向に適宜の間隔で配置されており、図 9 及び図 1 0 を参照して、各エアバッグ装置 2 0 の対応する固定具 2 1, 2 2 をそれぞれ挿通することができる。これら一对の固定部 6 2 は、底面部 5 2 とともに本体部 4 1 から露出しており、シートフレーム 6 F にバックパン 4 0 を取付けた状態においては、対応する固定具 2 1, 2 2 を前後方向から挿通可能な位置に配置されている。

【 0 0 3 2 】

[通過部]

通過部 6 4 は、図 5 及び図 7 を参照して、側部 5 6 の側部端部 5 6 a を厚み方向に貫通する孔部であり、第一力布 3 1 を挿通可能な開口寸法を有している。この通過部 6 4 の開口部分は、図 2、図 5 及び図 1 1 を参照して、本体部 4 1 から露出しており、シートフレーム 6 F にバックパン 4 0 を取付けた状態においては、エアバッグ装置 2 0 の少なくとも一部を囲う第一力布 3 1 の配索途中に配置されている。そして通過部 6 4 の内面は、図 1 4 を参照して、本体部 4 1 の一部をなす被覆部 4 1 a にて被覆されている。すなわち側部 5 6 が埋設されている本体部 4 1 が、被覆部 4 1 a として通過部 6 4 の内面をも覆っている。このように通過部 6 4 の内面が被覆部 4 1 a にて覆われていることから、後述するよ

うに第一力布 3 1 を、極力破損させることなく通過部 6 4 に挿通させておくことができる。

【 0 0 3 3 】

[規制部・固定ピン]

規制部 6 6 は、図 7 ~ 図 9 を参照して、底面部 5 2 の裏面下部に設けられた略矩形の凹み部位であり、各力布 3 1 , 3 2 のシート裏側の端部を取付けることができる。この規制部 6 6 は、本体部 4 1 から露出しており、平坦な底壁 6 6 a と、この底壁 6 6 a の上下端からそれぞれ立ち上がる立壁 6 6 b , 6 6 c とを有している。底壁 6 6 a は、底面部 5 2 の裏面上部に比して一段低くされており、図 1 1 及び図 1 2 を参照して、各力布 3 1 , 3 2 の取付け具 3 4 a , 3 4 b の一片を重ねて配置することができる。この底壁 6 6 a には、各取付け具 3 4 a , 3 4 b の挿通孔 3 4 H に挿通可能なボルト状の固定ピン 6 8 が突出している。そして後述するように各取付け具 3 4 a , 3 4 b を重ねながら規制部 6 6 内に配置しつつ、各取付け具 3 4 a , 3 4 b の挿通孔 3 4 H に固定ピン 6 8 を挿通する。このとき規制部 6 6 の立壁 6 6 b , 6 6 c によって、各取付け具 3 4 a , 3 4 b が固定ピン 6 8 を中心として回転することを規制することができる。

10

【 0 0 3 4 】

[掛止部]

複数の掛止部（第一掛止部 7 1 ~ 第三掛止部 7 3 ）は、図 7 ~ 図 9 を参照して、底面部 5 2 の裏面側に設けられた爪状の部位であり、シートカバー 6 S のシート裏側の端部を取付けることができる。第一掛止部 7 1 と第二掛止部 7 2 は、それぞれ底面部 5 2 の裏面左側から突出する爪状の部位であり、ブラケット部 5 0 の対応する部分をクランク状に切り起こすことで形成されている。また第三掛止部 7 3 は、底面部 5 2 の下端から突出する略 L 字状の突出片で形成されており、この突出片の端部は底面部 5 2 に対してクランク状に屈曲しながら突出して配置されている。これら複数の掛止部 7 1 ~ 7 3 は、図 1 2 を参照して、底面部 5 2 とともに本体部 4 1 から露出しており、シートフレーム 6 F にバックパン 4 0 を取付けた状態においては、上下方向に適宜の間隔で配置されている。そして後述するように、シートカバー 6 S の取付け時においては、第三表皮ピース S P 3 の端部から露出するワイヤ 1 8 が、それぞれ対応する掛止部 7 1 ~ 7 3 に掛止されることとなる。

20

【 0 0 3 5 】

[シートバックの組立作業]

図 3 を参照して、シートフレーム 6 F の着座側にバックパン 4 0 を組付けつつ、このバックパン 4 0 の上部右側にエアバッグ装置 2 0 を配設する。このときロアパン 4 4 の一對のボルト受け部 4 4 a を、それぞれシートフレーム 6 F の対応する締結板 1 8 F にあてがいながら、図示しないボルト部材を介して締結して固定する。この状態では、アップパン 4 2 がロアパン 4 4 に対して起立した状態で配置されるとともに、各支承凹部 4 2 a が、シートフレーム 6 F のブラダ 1 5 に押し当てられている。そこでアップパン 4 2 の上部と、アップフレーム部 1 2 の上部を、ストッパとなる帯体（図示省略）で連結しておく。そしてブラダ 1 5 がシート前方に移動することにより、アップパン 4 2 が、一對のヒンジピン 4 6 を基点としてロアパン 4 4 に対してシート前方に傾倒する。そしてアップフレーム部 1 2 とアップパン 4 2 の間で帯体が緊張して張った状態となることで、アップフレーム部 1 2 に対するアップパン 4 2 の前傾が停止することとなる。

30

40

【 0 0 3 6 】

また上述の作業に前後して、エアバッグ装置 2 0 を、アップパン 4 2 のブラケット部 5 0 に締結して固定する。このとき図 9 ~ 図 1 1 を参照して、エアバッグ装置 2 0 の各固定具 2 1 , 2 2 を、それぞれブラケット部 5 0 の対応する固定部 6 2 に挿通しながら裏側でナット状の留め具 8 0 に螺合する。このようにエアバッグ装置 2 0 をブラケット部 5 0 に締結して固定することで安定的に取付けることができる。このとき座面となる固定部 6 2 の周縁が座屈変形にくくされて軸力を出して締結できるため、各固定具 2 1 , 2 2 に対して留め具 8 0 を極力緩ませることなくしっかりと螺合させて締結しておくことができる。そしてこの取付け状態においては、エアバッグ装置 2 0 の裏側がブラケット部 5 0 の底面

50

部 5 2 で支持された状態とされる。またエアバッグ装置 2 0 の右方に配置する突出部 5 4 により、後述するようにエアバッグ 2 4 を正しい方向である着座側に向けてスムーズに展開させることができる。

【 0 0 3 7 】

つぎにシートパッド 6 P を、図 2 を参照して、バックパン 4 0 を介してシートフレーム 6 F の着座側に取付けたのち、各力布 3 1 , 3 2 とシートカバー 6 S を順次取付ける。このときシートパッド 6 P は、シートカバー 6 S の張力などによりバックパン 4 0 に押し付けられた状態とされている。またシートパッド 6 P の裏面を、バックパン 4 0 の着座側に接着又は貼着しておくことができる。こうすることでアップパン 4 2 の前傾に伴ってシートパッド 6 P の上部側を前傾させることが可能となり、シートバック 6 を中折れさせる構成とすることができる。そして図 2 を参照して、シートパッドの飛出部 6 P X が、右側の天板サイド部 6 b の頂部付近に配置されている。この状態においては、エアバッグ装置 2 0 が、ブラケット部 5 0 に取付けられて飛出部 6 P X の裏側に配置されている。

【 0 0 3 8 】

そして第一力布 3 1 と第二力布 3 2 の一端側を、それぞれシートカバー 6 S の着座側に配置しつつ、破断部 6 S X としての縫合部 S E W 2 に共縫いして取付けておく。つぎに第二力布 3 2 を、エアバッグ装置 2 0 を右側から囲うように、天板サイド部 6 b の右外面に沿って配置しつつ通路部 W 2 からシート内に引込みながらブラケット部 5 0 の裏面側に配索する。また第一力布 3 1 を、エアバッグ装置 2 0 を左側から囲うように、天板サイド部 6 b の左外面に沿って配置しつつ通路部 W 1 からシート内に引込みながらブラケット部 5 0 の裏面側に配索する。このとき第一力布 3 1 は、エアバッグ装置 2 0 の一部である左面側を囲いつつ、ブラケット部 5 0 の通過部 6 4 を通りながら着座側から裏側に配索される。この通過部 6 4 の内面は、図 1 4 を参照して、被覆部 4 1 a にて被覆されていることから、第一力布 3 1 を、極力破損させることなくスムーズに通過部 6 4 に挿通させておくことができる。そして図 1 1 及び図 1 2 を参照して、各力布 3 1 , 3 2 の他端に取付けられた取付け具 3 4 a , 3 4 b をブラケット部 5 0 の規制部 6 6 内に配置する。そして規制部 6 6 内で重ねられた各取付け具 3 4 a , 3 4 b の各挿通孔 3 4 H に固定ピン 6 8 を挿通する。このとき規制部 6 6 の立壁 6 6 b , 6 6 c によって、各取付け具 3 4 a , 3 4 b が固定ピン 6 8 の軸周りに回転することを規制することができる。そして正しい姿勢で重ねられた取付け具 3 4 a , 3 4 b から突出した固定ピン 6 8 にナット部材 N M を螺合することで、各力布 3 1 , 3 2 の端部をブラケット部 5 0 に安定的に取付けることができる。こうして一对の力布 3 1 , 3 2 が、シートカバー 6 S の裏側でエアバッグ装置 2 0 を囲うように配置されることとなる。

【 0 0 3 9 】

つぎに図 2 を参照して、シートパッド 6 P の着座側をシートカバー 6 S で被覆する。このとき破断部 6 S X としての縫合部 S E W 2 を天板サイド部 6 b の頂点付近に配置しておく。また第三表皮ピース S P 3 によって天板サイド部 6 b の側面側を覆いつつ、第三表皮ピース S P 3 のシート裏側の端部を、バックボード 9 の内側からシート内に引込む。そして図 1 2 及び図 1 5 を参照して、第三表皮ピース S P 3 のシート裏側の端部をブラケット部 5 0 の裏側に引っ張り込みながら、第三表皮ピース S P 3 の端部から露出するワイヤ 1 8 を、それぞれ対応する掛止部 7 1 ~ 7 3 に掛止する。こうすることでシートカバー 6 S の端部をブラケット部 5 0 に安定的に取付けることができる。

【 0 0 4 0 】

[エアバッグの挙動]

図 2 を参照して、乗物衝突時においては、図 1 0 に示すエアバック装置 2 0 のエアバッグ 2 4 をシート外に展開させて乗員側部を保護する。このときエアバッグ 2 4 が、ガスの供給により膨張しつつ飛出部 6 P X を突き破りながらシートカバー 6 S 側に向けて飛出すこととなる。つづいて一对の力布 3 1 , 3 2 が緊張して破断部 6 S X を開裂（開口）させることにより、エアバッグ 2 4 をシート外に展開させる。このエアバッグ展開時においては、シート外に向けて膨張するエアバッグ 2 4 を、エアバッグ装置 2 0 とともに裏面側の

相対的に変形しにくいブラケット部 50 によって好適に支持することができる。またブラケット部 50 の突出部 54 によって、エアバッグ 24 を着座側に向けて正しく膨張させることができる。さらにシートカバー 6 S としての第三表皮ピース S P 3 の端部がブラケット部 50 に安定的に取付けられている。このためエアバッグ展開時においても、第三表皮ピース S P 3 の端部をブラケット部 50 に強固に留めておくことができ、シートカバー 6 S が極力外れない構成である。さらに各力布 3 1, 3 2 のシート裏側の端部が、それぞれブラケット部 50 に安定的に取付けられている。このため各力布 3 1, 3 2 の緊張状態が好適に維持されて、破断部 6 S X を素早く開裂させて開口状態とすることができる。

【0041】

以上説明したとおり本実施例では、ブラケット部 50 が、本体部 4 1 に比して変形しにくい素材（曲がりにくい又は破損しにくい素材）で形成されている。このため他部材であるエアバッグ装置 20 を取付けるためのブラケット部 50 を、構造的に補強する必要がなく低質量でコンパクトな構成とすることができる。例えば図 2 を参照して、ブラケット部 50 を相対的に薄肉化して質量を低減することにより、シンプルな構造とすることができる。そしてエアバッグ装置 20 のエアバッグ 24 の展開時には、相対的に変形しにくいブラケット部 50 にて他部材であるエアバッグ装置 20 を安定的に支持することができる。またエアバッグ装置 20 を締結するための固定具 2 1, 2 2 を、本体部 4 1 から露出するブラケット部 50 の固定部 6 2 に挿通しつつ留め具 8 0 に螺合して締結する。このとき座面となる固定部 6 2 の周縁が座屈変形しにくくされて軸力を出して締結できるため、各固定具 2 1, 2 2 に対して留め具 8 0 をしっかり螺合させておくことができる。またエアバッグ装置 20 の外方に配置する突出部 54 により、エアバッグ 24 を正しい方向に向けてスムーズに展開させることができる。また樹脂製の本体部 4 1 に比して変形しにくい金属製のブラケット部 50 にエアバッグ装置 20 を安定的に取付けることができる。またブラケット部 50 の少なくとも一部が本体部 4 1 に埋設状に一体化されており、さらにブラケット部 50 が、その埋設部分に設けられたアンカー部 6 0 によって本体部 4 1 に安定的に保持されている。こうして本実施例によれば、比較的コンパクトな構成にて、他部材であるエアバッグ装置 20 を支持部材としてのバックパン 4 0 に安定的に取付けることができる。

【0042】

さらに本実施例では、他部材である各力布 3 1, 3 2 の端部を、相対的に変形しにくいブラケット部 50 に安定的に取付けることができる。このとき第一力布 3 1 を、シート着座側から裏側に配索する場合、この第一力布 3 1 を、本体部 4 1 から露出するブラケット部 50 の通過部 6 4 を通過させながら適切に配索することができる。そして通過部 6 4 の内面が被覆部 4 1 a にて覆われていることから、第一力布 3 1 を、極力破損させることなく通過部 6 4 に挿通させておくことができる。また規制部 6 6 によって、力布 3 1, 3 2 の取付け具 3 4 a, 3 4 b を、ブラケット部 50 の適所に正しく配置しつつ固定ピン 6 8 に締結して固定することができる。また他部材であるシートカバー 6 S の端部を、相対的に変形しにくいブラケット部 50 に安定的に取付けることができる。こうして本実施例によれば、比較的コンパクトな構成にて、他部材である各力布 3 1, 3 2 とシートカバー 6 S を支持部材としてのバックパン 4 0 に安定的に取付けることができる。

【0043】

本実施形態の乗物用シートは、上述した実施形態に限定されるものではなく、その他各種の実施形態を取り得る。本実施形態では、ブラケット部 50 の構成（形状、寸法、配置位置、配設数、素材など）を説明したが、同部の構成を限定する趣旨ではない。例えばブラケット部に対してエアバッグ装置を締結以外の手法で取付けることができ、カシメ付けや、溶接や接着などの手法で直接的に取付けることができ、他の取付け部材を介して間接的に取付けることもできる。なおカシメ付けの手法は特に限定しないが、スピンカシメ、ハトメカシメ、リベットカシメ、パーリングカシメ、ダボカシメを例示できる。またブラケット部は、本体部よりも変形しにくい素材で形成されておればよく、例えば極度に硬く変形しにくい繊維強化プラスチックなどの樹脂にて形成することもできる。またブラケッ

ト部から突出部と側部の少なくとも一方を省略することもできる。

【 0 0 4 4 】

また本実施形態では、ブラケット部 5 0 に、アンカー部 6 0 と、一对の固定部 6 2 と、通過部 6 4 と、規制部 6 6 と、固定ピン 6 8 と、複数の掛止部 7 1 ~ 7 3 を設ける例を説明した。このブラケット部の各種部位の構成（形状，寸法，配置位置，配設数など）は適宜変更可能である。例えば固定部の形成位置や形成数は、エアバッグ装置の構成に応じて適宜変更可能である。また通過部は、力布を通過可能な切欠き状の部位であってもよい。また一对の通過部をブラケット部に設けるとともに、各通過部に、対応する力布をそれぞれ通過させておくこともできる。また通過部の内面は、その一部が被覆部に被覆されていてもよく、被覆部に被覆されていない状態であってもよい。またアンカー部も、孔状（貫通孔又は非貫通の凹部）や切欠き状であってもよく、ブラケット部の構成に応じてアンカー部を適宜省略することもできる。また規制部の構成も、取付け具の回転を規制できる限り適宜変更可能であり、例えばブラケット部から突出しつつ取付け具の周囲に配置する凸部で構成されていてもよい。また潰れ変形可能な棒状または円筒状の固定ピンに、取付け具をカシメ付けにて固定する構成とすることができる。またブラケット部には、他部材である力布とシートカバーの少なくとも一方を取付けることができ、両部材を取付けない構成とすることもできる。また他部材の例として、シート内に配置される各種の部材（ワイヤや配線やモータなど）を例示できる。そして取付けるべき他部材の種類に応じて、ブラケット部の構成を変更する（例えば通過部と規制部と固定ピンと掛止部のいずれかを省略したり、これらとは異なる他部材を取付けるための部位を新たに設けたりする）ことができる。

【 0 0 4 5 】

また本実施形態では、本体部 4 1 とブラケット部 5 0 を一体成形によって一体化する手法を例示した。このほかに本体部にブラケット部を嵌込み可能な嵌込み部を設け、この嵌込み部にブラケット部を嵌め込むことで埋設状に一体化させることもできる。また本体部の外面にブラケット部を取付けて一体化することもできる。

【 0 0 4 6 】

また乗物用シート 2 の構成（シート構成部材，エアバッグ装置等）の構成は適宜変更可能である。例えば本実施形態の構成は、シートクッション等の各種シート構成部材に適用可能である。すなわちエアバッグ装置は、シートバックのほか、シートクッションやヘッドレストなどの各種シート構成部材の適宜の位置に配設できる。また力布の構成（形状，寸法，配設位置，配設数等）も、エアバッグ装置の配設位置等に応じて適宜変更可能である。そして本実施形態の構成は、車両や航空機や電車等の乗物用シート全般に適用可能である。

【 符号の説明 】

【 0 0 4 7 】

- 2 乗物用シート
- 4 シートクッション
- 6 シートバック
- 8 ヘッドレスト
- 6 A 上部領域
- 6 B 下部領域
- 6 F シートフレーム
- 1 8 F 締結板
- 6 P シートパッド
- 6 P X 飛出部
- W 1 , W 2 通路部
- 6 S シートカバー
- 6 S X 破断部
- 1 8 ワイヤ

10

20

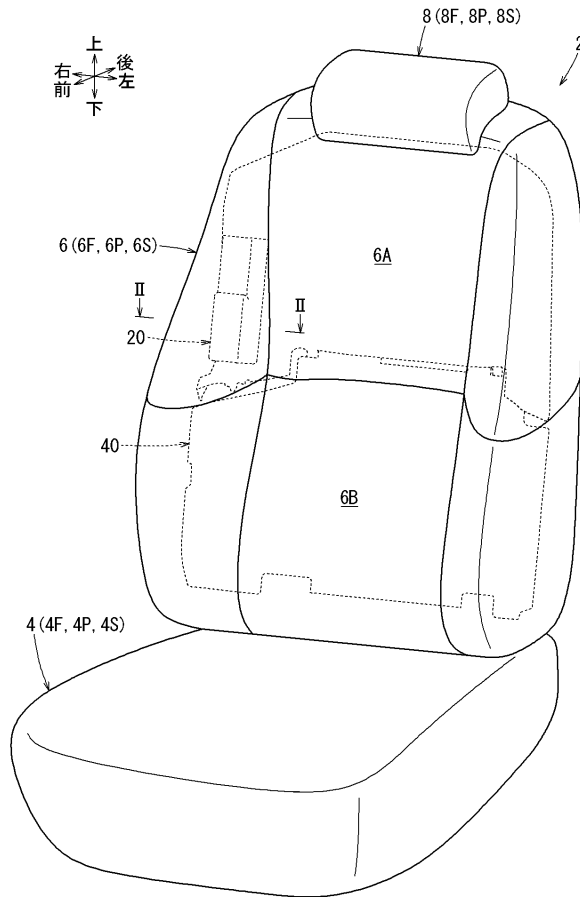
30

40

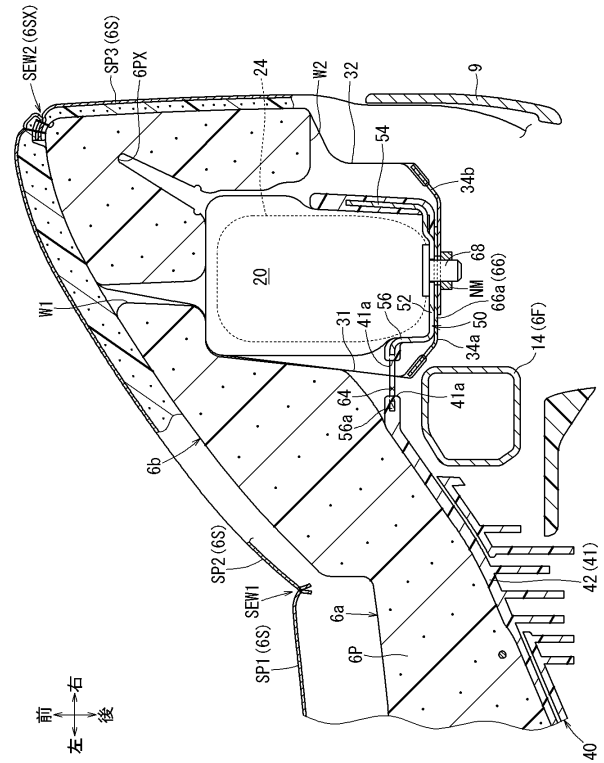
50

S P 1	第一表皮ピース	
S P 2	第二表皮ピース	
S P 3	第三表皮ピース	
6 a	天板メイン部	
6 b	天板サイド部	
6 c	区画溝部	
9	バックボード	
2 0	エアバック装置	
2 1 , 2 2	固定具	
2 4	エアバッグ	10
2 6	ガス供給装置	
3 1	第一力布	
3 2	第二力布	
3 4 a , 3 4 b	取付け具	
3 4 H	挿通孔	
3 5 H	取付け孔	
4 0	バックパン	
4 1	本体部	
4 1 a	被覆部	
4 2	アッパパン	20
4 2 a	支承凹部	
4 4	ロアパン	
4 4 a	ボルト受け部	
4 4 H	固定凹部	
4 6	ヒンジピン	
5 0	ブラケット部	
5 2	底面部	
5 4	突出部	
5 6	側部	
5 6 a	側部端部	30
6 0	アンカー部	
6 2	固定部	
6 4	通過部	
6 6	規制部	
6 6 a	底壁	
6 6 b , 6 6 c	立壁	
6 8	固定ピン	
7 1	第一掛止部	
7 2	第二掛止部	
7 3	第三掛止部	40
8 0	留め具	
N M	ナット部材	

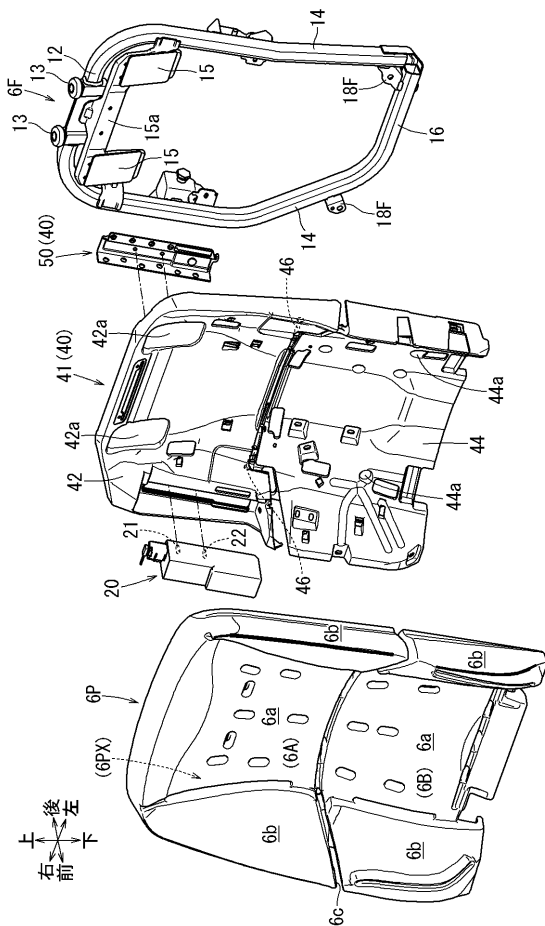
【図 1】



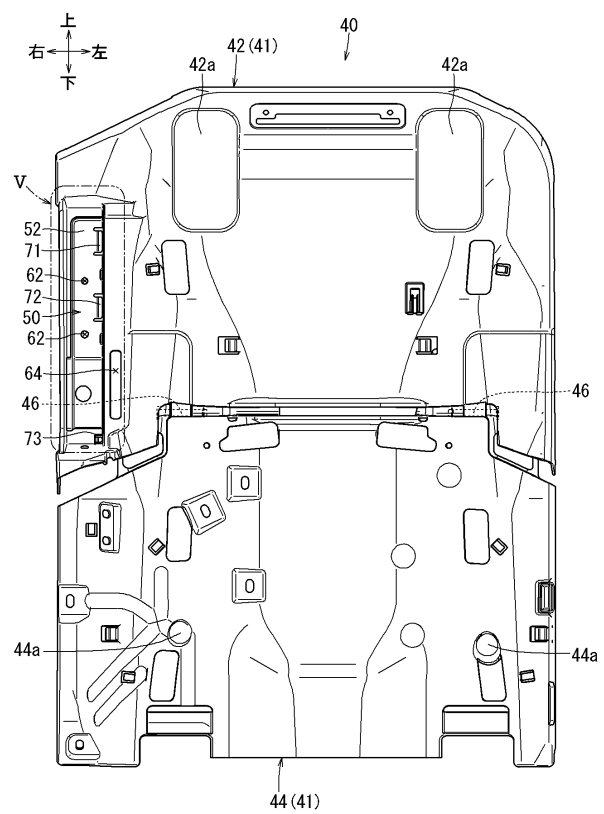
【図 2】



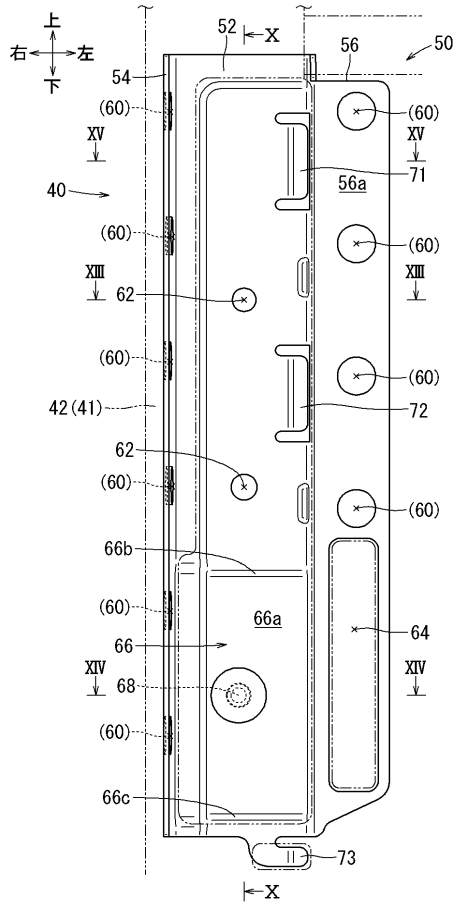
【図 3】



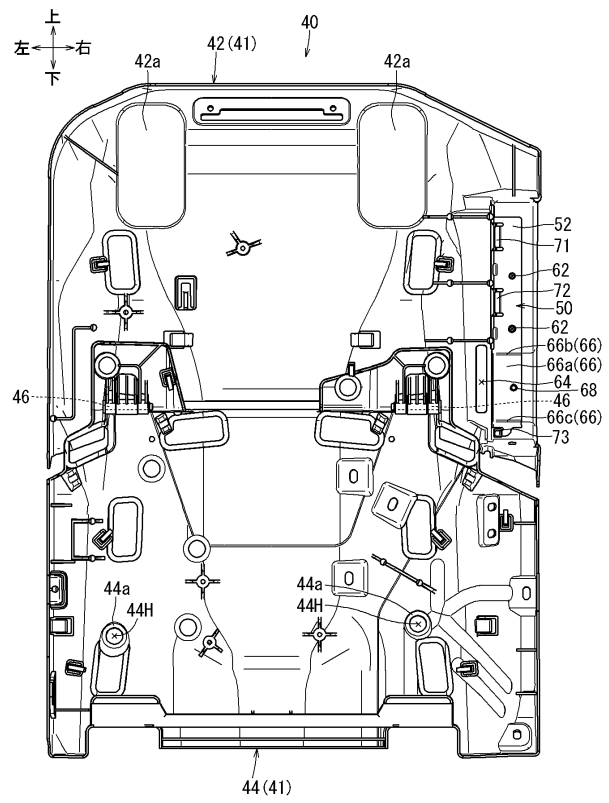
【図 4】



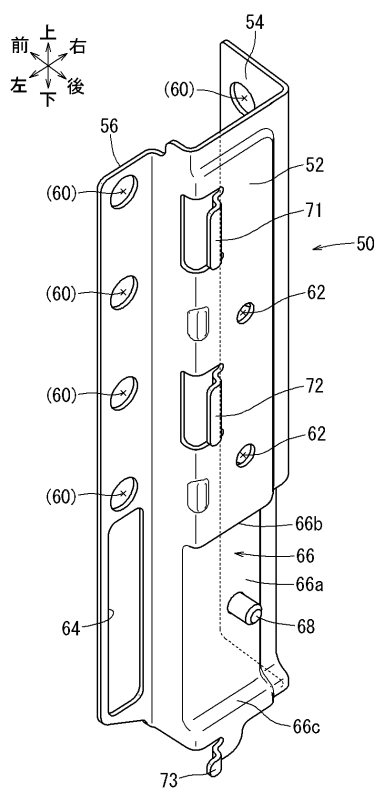
【図 5】



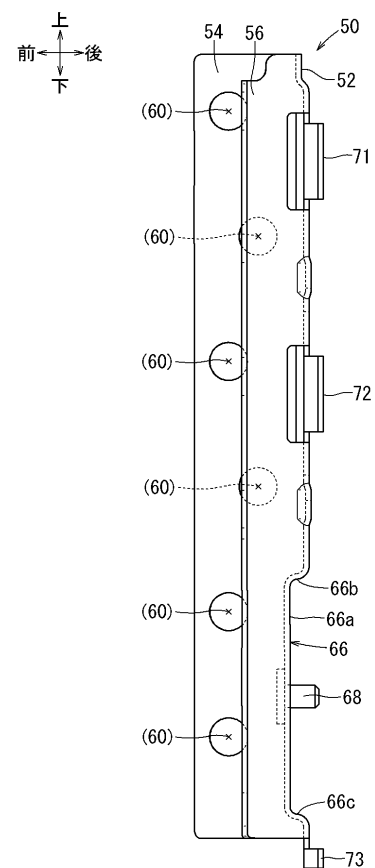
【図 6】



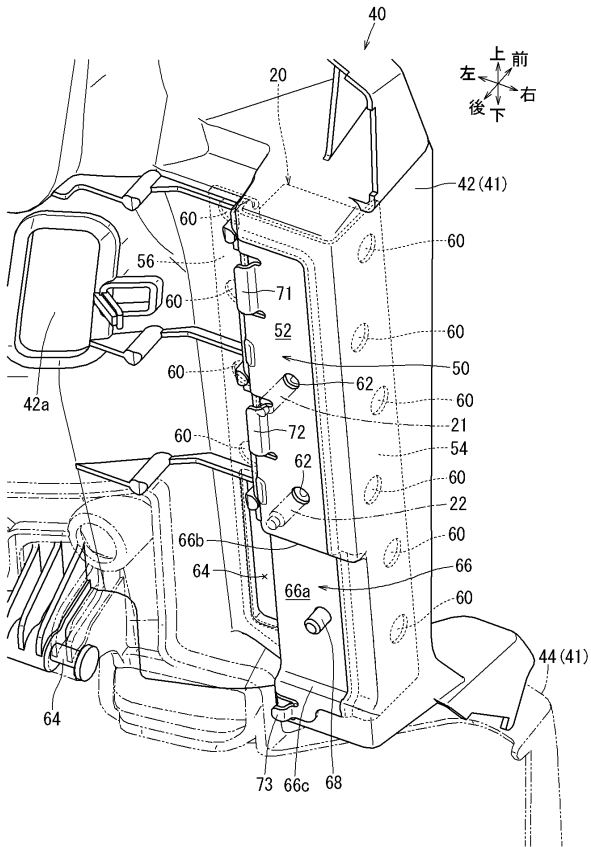
【図 7】



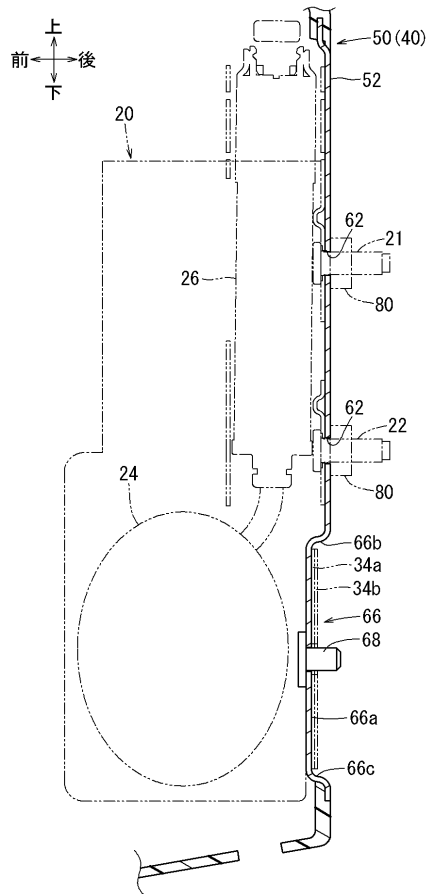
【図 8】



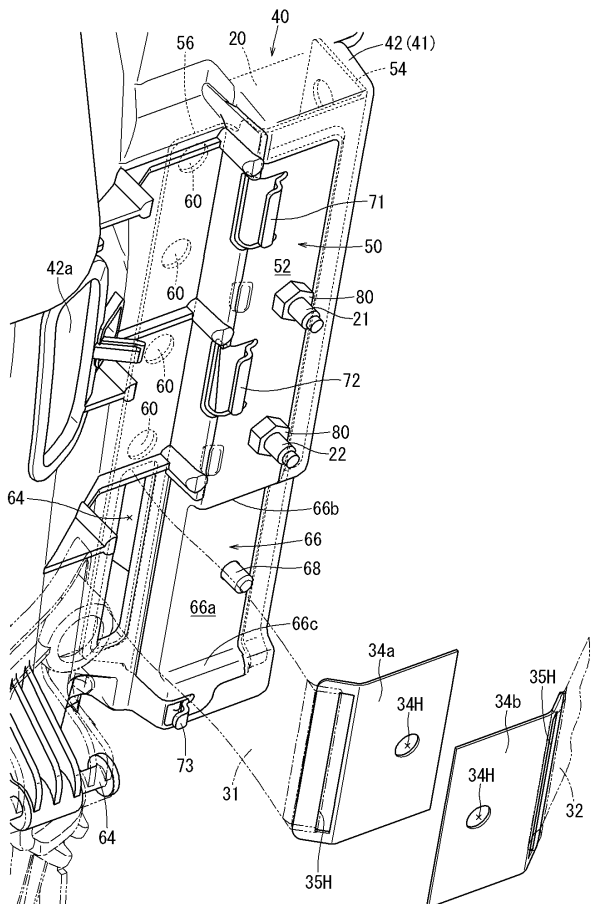
【図 9】



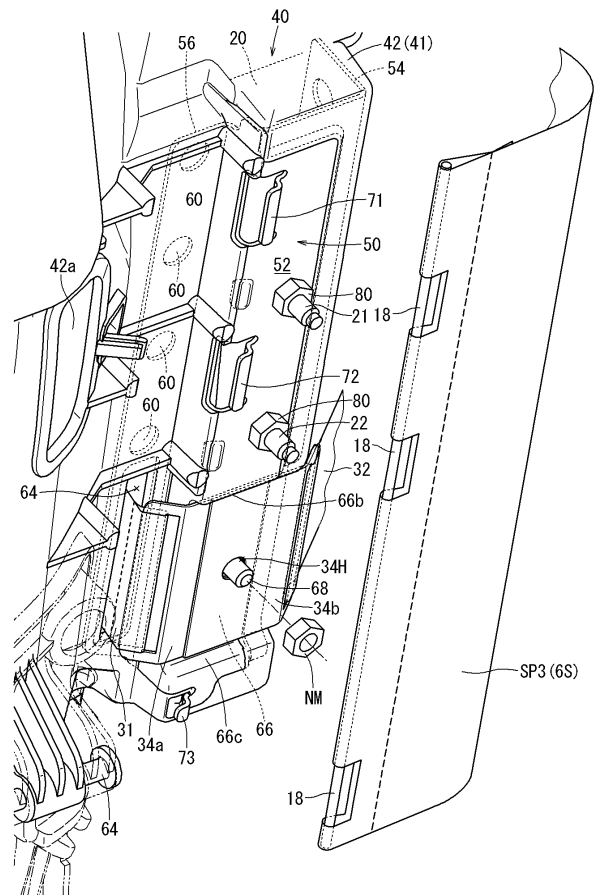
【図 10】



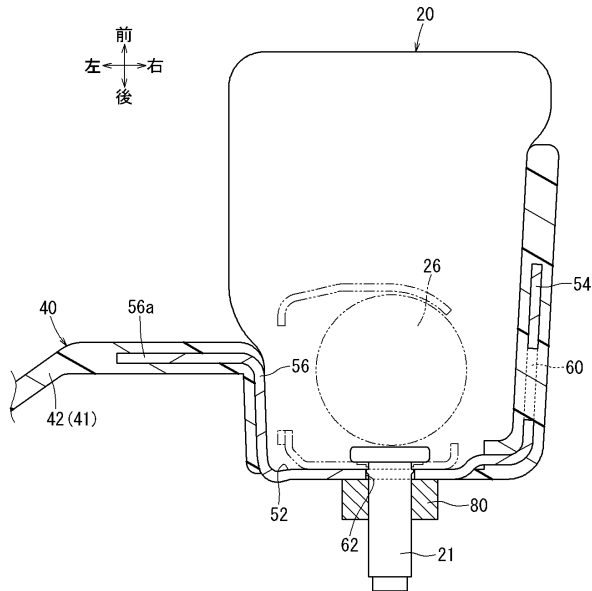
【図 11】



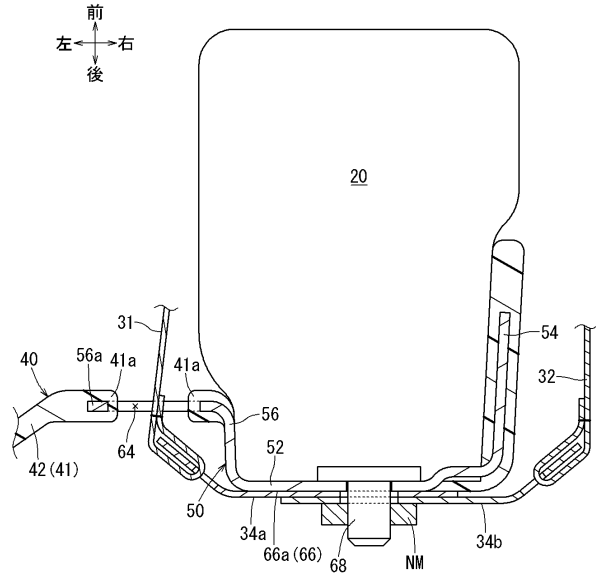
【図 12】



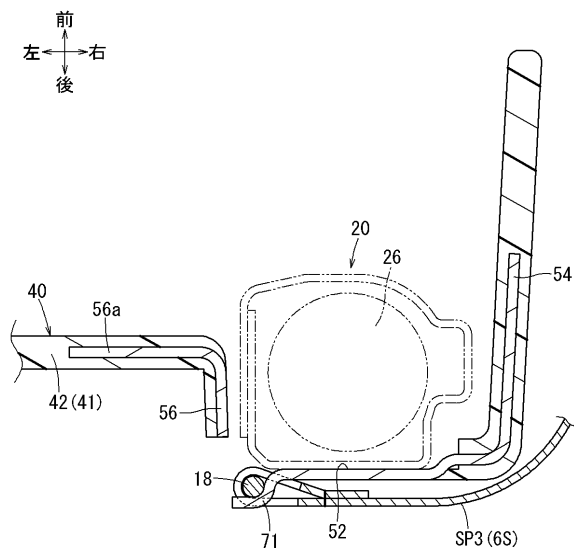
【図 1 3】



【図 1 4】



【図 1 5】



フロントページの続き

- (72)発明者 杉橋 直登
愛知県刈谷市豊田町1丁目1番地 トヨタ紡織株式会社内
- (72)発明者 田中 俊介
愛知県豊田市トヨタ町1番地 トヨタ自動車株式会社内

審査官 小島 哲次

- (56)参考文献 再公表特許第2012/035619(JP, A1)

- (58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

B 6 0 N	2 / 9 0
B 6 0 N	2 / 4 2 7
B 6 0 R	2 1 / 2 0 7